

内閣情報部一・八 情報第九號

重慶 U・P 新聞電報抄送 (臺灣總督府交通部遞信部聽取)

一月三日

重慶發

(イ) 亞米利加大使館では宜昌の傳道館より報告を受けたが甘報には日本空軍編隊は一九三九年十二月三十日宜昌市地方に投擲せり、其際亞米利加傳道館の傍城にも落下し客間、門口及五十呎の石壁を破壊、四人の工人を殺し、禮拜堂を倒壊せり、他に二建築物に損害あり先年三月爆破されしと同箇所て其際にも三種築物、四住宅が破損を蒙つた。

(ロ) 國民精神總動員委員會は重慶公共團體に依り、ルーズヴェルト大統領に次項を打雷する様依頼された。即ち

支那國民は一月二十六日以後の日米通商航海條令の改革を希望せず、公共團體は一月一日市民團會に於て右決議をこ。

一月四日

重慶發

(イ) 支那軍部スポークスマンの語る所によれば廣東北部に於ける日本軍はクリスマス期して粵漢線の蘭州を攻撃、之を占領して支那側の攻勢準備を無効にし之を挫かんとした。

日本軍は十二月中旬に五ヶ師團を廣東方面に集中し、且つそれを容許ならしめる手段として十二月十七日には珠江を閉鎖した、それら増援隊は日本より派遣された騎兵なる近衛師團であるといはれる。日本軍は九龍境界線より撤退し、龍門を経て北進し来る東方の部隊に分流した、三水廣東方面の日本軍は西方部隊を構成して線路を北進しつつある、従北を發して北上する中央部隊は近衛師團より成つてゐる。之等三部隊は十二月二十三日を期して一齊に北方に向つて攻撃を開始した。猛進撃に依り十二月三十一日には東方部隊は龍州より四十軒の線に前進した、一方西方部隊は沿線の英徳附近に到達、中央部隊は良口城に達した、支那側はクリスマス期間中に龍州方面に増援軍を急派した。廣東北部に據る支那軍は新年最初の逆襲を一齊に開始し、良口城の日本近衛師團に甚大な損害を與へ之を殲滅退却せしめた。日本軍の三部隊は一齊に南方に退却し、かくして二ヶ月に亘つて準備されたクリスマス攻撃も今や完全に失敗に終らんとしてゐる。日本軍が今再び攻撃し得るか否やの間に對してスホークスマンは日本軍が再び來襲して来るならば支那側は之を迎へ撃ち、再び撃退するであらうと語つた。

(ロ)支那側スホークスマンの語る所によればこの一週龍州江前線に於ては激戦はなく單に小競合ひがあつたのみである。北支に於ける日本軍は包頭地域に増軍を増派した。廣東方面に於ける日本軍のクリスマス攻撃の戦果を綜合すれば日本軍の死傷者は一萬二千、遺棄死體三千、といはれる。

内閣情報部一・八 情報第十號

一 重慶 U・P 新聞電報放送 (五日) ↓ (臺灣總督府交通局遞信部總取) 重慶發

國民政府委員會は、通商條約廢棄に關する日米關係を論ずる爲、新年の昨日の二回に亘り會を催した、二回共有名なる學者たる副團長に依り主催された。委員會は次頁に亘り述べた亞米利加が日本と通商條約を改定しても、しなくとも、此は全く亞米利加の自由に囀るべきことであるから、第三者が意見を述べらるは當を得たものでないといふに意見は一致してゐるが、然し未來の日米通商が、支那抗日方面或は東亞建設方面に、世界平和方面に影響する所あるとも、米支の親密なる關係を持續する以上は、自分達の立場を米國民衆に卒直に通知する事は、當然であるとした

日本軍が侵略を開始して以來、日本は實に於ても數量に於ても大部分は亞米利加の軍需品の御蔭を蒙つてゐる。日支戦に對する日米通商の重大なる事は、過去三年間に亘り日本に輸入されたる米國の軍需品より押しでも重り知られる所である。ワシントン經濟研究支那委員の編纂せる統計に依れば一九三七年日本に輸入せられたる亞米利加軍需品高は日本輸入軍需品の五四、四パーセントに達し、一九三八年には五六パーセントに達してゐる。一